

【韓国】 李明博大統領の竹島上陸と韓国政府の国会答弁

菊池 勇次

(本稿は、海外立法情報課が執筆を依頼したものである。)

- * 李大統領の竹島上陸(8月10日)後、韓国政府は国会答弁を通じ、①竹島上陸は国内視察であり、政治的に解釈すべきでない。②ICJ 提訴には応じないが、国際広報戦では一層努力する。③李大統領の天皇謝罪要求発言は非公式発言であり、日本側の問題提起は不当である。天皇訪韓時には天皇の謝罪が必要であり、昭和天皇には戦争責任がある等の立場を表明した。

李明博(イ・ミョンバク)大統領の竹島上陸とその後の発言

李明博大統領は2012年8月10日、事前に公式の発表を行うことなく、電撃的に韓国大統領として初めて竹島に上陸した。この上陸の背景について李大統領は8月13日、「独島訪問は3年前から準備しており、昨年も独島に揮毫を持って行こうとした。ところが、天候が悪かったため行くことができなかった。今回は、週末である土日に行き、一晩泊まるつもりであったが、天候のため日帰りとした。あえて行く必要があるのかという意見もあったが、昨年11月(ママ。実際には12月)に京都で(野田佳彦内閣総理大臣から日本大使館前に設置された慰安婦)少女像を撤去せよと要請され、1時間以上(慰安婦問題の解決について)説得しようとしたことがある。日本のような大国が決心さえすれば解決できるのに、日本国内の政治問題のため消極的な態度を見せており、行動で示す必要を感じた」と説明し、竹島上陸への日本側の反応は予想の範囲内であるとした上で、「国際社会での日本の影響力も以前とは違う」と指摘した。

8月14日には、聴衆の質問に答える形で、「(天皇が)韓国を訪問したければ、独立運動をされてお亡くなりになった方々を尋ね、心から謝罪をするならばよいと考える。『痛惜の念』のような言葉を言うならば、来る必要はない」と発言した。次いで、8月15日の光復節(大日本帝国からの解放を祝う記念日)演説では、「日本は我々の近隣国であり、体制的価値を共有する友邦であり、未来をともに開いていかなければならない重要なパートナーでもある。しかし我々は、日本との過去の問題という鎖に縛られ、韓日両国のみならず、北東アジアの未来に向けた歩みを遅滞させているという事実を指摘したい。特に日本軍慰安婦被害者問題は、二国間レベルを超えて、戦時における女性の人権問題として、人類の普遍的価値と正しい歴史に反する行為である。日本の責任ある措置を促す。」と述べ、竹島問題には触れず、慰安婦問題の解決を求めた。

韓国国会での議論と韓国政府の答弁

この一連の李大統領の発言による日韓関係の悪化を受け、2012年8月21日に開かれた国会外交通商統一委員会懸案報告では、①竹島上陸の時期をめぐる是非、②日本

の国際司法裁判所（ICJ）提訴への対応、③天皇陛下への謝罪要求発言の是非の3点が主な議論の対象となった。

①竹島上陸の時期をめぐる是非については、与野党の議員から「なぜこの時期に上陸に踏み切ったのか」という質問がなされたが、金星煥（キム・ソンファン）外交通商部長官は「基本的にこれ（竹島上陸）は韓国の大統領が国内の領土を訪問しただけにすぎず、（中略）、地方巡視の一環であるため、時期について外交部は直接関与していない。（中略）そして、大統領が我が国内の領土を訪問したことについて、政治的な意味を付与することも、自分は適切ではないと考える。」と答弁した。

②日本の ICJ 提訴への対応について、金外相は「韓国政府としては、独島は韓国領土であり、領土紛争は存在しないという立場であるから、ICJ に行くというのは一顧の価値もない」と述べ、裁判に応じる可能性を否定した。一方、野党議員が「ICJ 提訴に我々は応じないというが、日本が国際世論を喚起し続けても対応をとらないのは、不利にならないのか」と懸念を示したのに対し、金外相は「提訴自体には応じないが、（中略）我々は独島がなぜ韓国領土であるかを立証する多くの資料を持っている。また、それらは現在 10 か国語に翻訳してある。したがって、日本が国際広報戦をするならば、この機会に国際社会になぜ独島が韓国領土なのかということを一層知らせる努力をしなければならない。」と答弁した。

③天皇陛下への謝罪要求発言に関しては、与野党の議員から質問が相次ぎ、特に野党議員は「無用に日本国民の感情を刺激したのではないかと」発言に批判的な姿勢を示した。これに対し、金外相は「大統領が公開の場で発言したものの、当時現場にいた方の質問に答えたものだと自分は理解している。韓国外交部が日王（以下発言のママ）謝罪要求を日本に伝達したわけではない。そのため、公式に我々が日本に伝達していないことについて、日本が問題提起するのは不当であると自分は考える」と答弁し、質疑応答での原則的かつ非公式の発言であるという点を強調した。

一方、「日本は韓国に心から謝罪すべきではないのか」という質問には、「当然日王が（韓国に）来れば、謝罪すべき部分は謝罪しなければならない」と答弁した。さらに、昭和天皇の戦争責任に関する見解を問う質問に対しても、当初は準備不足を理由に回答を避けようとしたが、重ねて問われた後、「当然責任がある」と答弁した。

参考文献（インターネット情報は 2012 年 9 月 21 日現在である。）

- ・청와대(青瓦台)「국회의장단 초청 오찬 관련 브리핑」(国会議長団招請午餐関連ブリーフィング)〈http://www.president.go.kr/kr/president/briefing/briefing_list.php〉より
- ・KTV韓国政策放送「"일왕, 한국 오려면 진심으로 사과해야"」(日王、韓国に来るなら心から謝罪すべき)〈<http://www.ktv.go.kr/program/contents.jsp?cid=436044>〉
- ・청와대(青瓦台)「제 67 회 광복절 경축사」(第 67 回光復節祝辞)〈http://www.president.go.kr/kr/president/news/news_list.php〉より
- ・「第 310 回国会(臨時会)外交通商統一委員会会議録(臨時会議録)第 1 号」〈http://likms.assembly.go.kr/kms_data/record/data2/310/pdf/310cg0001b.PDF〉